

令和 7 年 6 月 1 8 日
1 6 : 3 0 ~ 1 7 : 4 0
伊丹市立昆陽里小学校

令和 7 年度第 1 回運営協議会 議事録

出席委員：会長、委員 9 名

欠席委員：委員 1 名

校 長：

陪 席：市教育委員会 教育委員、指導主事

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ 会長
- 3 委員紹介
- 4 内容
 - (1) 学校の状況について
 - (2) 会長より
 - (3) その他
- 5 閉会

1 開会【委員】

2 会長あいさつ【会長】

今年度から会長を務めることになった。昨年度まで P T A 会長を 3 年間務めた。これまでも学校運営協議会には P T A 会長の立場で参加させていただいた。前会長の後を受け、何か少しでも学校や地域、P T A のためにお役に立てればと思っている。

3 委員紹介

新たに 3 名委員となる。

＜伊丹市教育委員会から＞

令和 7 年度 of 取組における重点および主な取組
(施策) について説明 (別紙参照)。



4 内容

(1) 学校の状況について【校長】

資料 (閉会后回収済) をもとに、以下のことについて説明

<Ⅰ 安心・安全について>

現状として、直近5年間の災害記録（病院受診者）の件数を年度ごとに比較すると、令和2年度（40件）から令和4年度（27件）にかけて減少したが、令和5年度（38件）、令和6年度（44件）と増加している。この原因については様々な要因があり1つに特定することは難しいが、対策として学校のきまりごと（廊下を走らない、他の教室や体育館等に移動する際の無言整列など）の徹底指導に努める。また、安全点検の実施や体育時における指導計画の作成と安全指導等の徹底することで災害の未然防止を図る。

<Ⅱ 学力について>

6年生児童対象の全国学力・学習状況調査の結果について、平成31年度（令和元年度）から令和6年度まで（令和2年度を除く）の国語と算数の平均正答率の推移を見ると、全国平均を100としたとき、令和4年度において国語、算数ともに100を超えたが、他の年度においては国語、算数ともに100を下回った。

また、2～6学年で実施したCRT調査の結果について、令和元年度から4年度は算数、令和5、6年度は国語で実施したため同一集団における経年比較において単純な比較はできないが、どの学年も概ね100前後を推移している。

これらの結果を踏まえて、今後の取組としては、授業改善と校内研究の充実によって学力向上を図る。具体的には、授業改善については、①1時間のめあてとまとめと振り返りのある授業の実践、②ICT活用による学習理解の促進と学習意欲の喚起、③自分の言葉でまとめる時間の確保である。校内研究の充実については、①全教職員による子どもたちの実態の共通理解、②子どもたちの実態認識に基づいた研究仮説設定、③実践を検証するための客観的評価項目の設定、④若手教員のためのパワーアップ研修の実施である。

<Ⅲ 豊かな心について>

全国学力・学習状況調査の結果において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」、「道徳の授業で話し合い活動をしていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は、いずれも95ポイント以上の高い数値であった。平成31年度からの経年比較においても、80ポイント以上で推移している。しかし、令和5年度実施の「家で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に対する肯定的な回答は「76.5」となっており、令和3年度「97.0」、令和4年度「95.6」から大きく下がっており、家庭学習の定着が課題である。

その対策としては、PTAとの連携や土曜学習、放課後学習の充実による家庭への協力依頼、道徳授業の研究実践や指導と評価の一体化の実践による道徳教育の充実、行事および学年特別活動を通じた成就感の獲得による学校行事の充実などを図り、豊かな心の育成に努める。

<Ⅳ 体力について>

5年生児童対象の全国体力・運動能力テストの結果において、反復横跳びでは男女ともに全国平均並みであり、シャトルランでは男女ともに年度ごとに差異が大きくなっている。体力向上に向けた取組については、スポーツバッジ認定制度の周知と活用、体力向上推進員の活用等によりスポーツテストに向けた取組を強化するとともに、学級担任による外遊びの推進および児童会活動等の活用によって体力の向上を図りたい。その評価にあたっては、定量評価（全国体力・運動能力テスト、給食残食調査、病欠欠席調査）と定性評価（休み時間における運動場での行動観察）をうまく活用していきたい。

<Ⅴ 人材育成について>

休職者を除いて、50代のベテラン層が4名、40代のミドルリーダー層が7名、30代が7名、20代が7名という年齢構成である。特にこの4年間は新規採用が続いており、初任者・2年次・3年次研修への意欲的な参加による若手教員の育成を図るとともに、ミドルリーダー養成研修の活用や10年次研修の充実、校内研修への講師の登用等を図り、教員全体の資質向上に努める。

<Ⅵ 働き方改革について>

教員の超過勤務時間における月平均45時間以上の人数については、令和3年度は5名だったが、令和4年度は2名、令和5年度は1名、令和6年度は2名となっている。引き続き、記録簿の活用の徹底等により勤務実態の客観的な把握に努めるとともに教育課程の見直しを図るなど働き方改革を進める。

(2) 会長より【会長】

学校運営協議会はどういう方向で進めていくべきか、あらためて確認したい。PTA会長の3年間をとおして、子どものために、学校が掲げる「子どもたちの幸せの実現」のために活動したい。教師の目線とPTAや地域の目線は異なると思うので、そこを出し合ってお互いの意見をすり合わせしていき、みんなでより良いものができるよう継続的に話し合いたい。

(各委員から)

【委員】

地域としては、学校の望みや願いを言ってもらえたと取り組みやすい。勝手な取組をして間違った方向にはしたくない。

【委員】

学力について、毎年同じ課題でなかなか学力向上につながっていない。地域としてできることがあれば力を出したい。

【委員】

子どもたちが楽しく学校に行けるようになってほしい。

【委員】

校長先生の説明で、土曜学習とは違ったデータを見ることができてよかった。伊丹



市教育委員会事務局からも説明のあった「ウェルビーイング」という言葉をよく聞くと、子どもが勉強しながら住みやすい街にしていけたらと思う。

【委員】

伊丹市教育委員会事務局にいただいた資料の重点3に「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」にあるが、先ほどから意見が出ているように具体的にできそうなことを始めて見るのが大切ではないか。やってみて、改善して、ステップアップしていけるように。環境整備もボランティアなど目に見える形で取り組んでみてはどうか。他校では九九のボランティアをしているところもある。

【委員】

多くの保護者は、学校の取組や学校運営協議会の取組をあまり知らないと思う。

【委員】

自分も学校運営協議会というものを知らなかった。親として家庭学習のこともフォローアップするなど、各家庭で理解して進めてほしいと思う。地域の中でも、近隣とはつながりもあるが、少し離れると分からない人も多い。夏に行われている祭りは、地域がつながる一つのきっかけとして良いと思う。そのようにグラウンドを使って何かやってみることはできないか。保護者には、いろんな年代や家庭の状況があると思うが、ミニマムのところから何か始められないか。

【委員】

中学校としても、地域との連携を進めていくことが課題である。来年（令和8年）の夏から、部活動が無くなり地域移行となる。今まで部活動だった時間をどのように使っていくか、連携したい。

(3) その他

○第2回学校運営協議会の開催日程について

令和7年12月10日（水）9時30分～

2校時（9時35分から）の授業参観後に開催

5 開会【委員】

貴重なご意見、ありがとうございました。本日出された様々なご意見をもとに、より具体的な取組が進められるようご協力をお願いいたします。